

学 校 教 育 目 標	思いやりのある子 がんばり強い子 みずから学ぶ子
目 指 す 学 校 像	元気いっぱい 笑顔いっぱい 感動いっぱい 春野っ子
重 点 目 標	1 学ぶ楽しさや喜びを味わい、互いに磨き合うことができる学校 2 誰一人取り残さない特色ある教育活動の展開 3 家庭・地域との連携を深め、地域と共に生きる学校 4 安全に配慮し、美しく整えられた環境づくりがなされている学校 5 主体的に学び、研鑽と修養に努める教師

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	＜現状＞ ○全国学力・学習状況調査（6年：国語、算数）及び市学習状況調査（3～6年：国語・算数、5・6年：社会・理科）では、全国・市平均を下回った。 ＜課題＞ ○児童の学びに向かう力（勉強への意欲、学習内容の理解、自ら計画を立てて勉強する）に課題があるので、児童の学習意欲を高め、「みずから学ぶ子」の育成に重点を置きたい。 ○教科では、全国・市ともに算数の学習に課題が見られるので、特に算数の学力向上に重点を置きたい。	・学ぶ楽しさを実感し、学習習慣を身に付ける教育活動の工夫・改善 ・学びの自律化・探究化に向けた授業改善・情報端末の活用	①タブレット学習、読書活動による落ち着いたある学び、書く活動による基礎基本の定着のため、朝の活動の時間（ICTタイム、読書タイム、基本の時間）を計画的に実施する。 ②学校課題研修と連携し、教員及び児童の日常的なタブレット活用を定着させる。 ①学習の質的向上を目指し、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」（自分で決める、思考する、やってみる、クラウド）に基づいた授業を実践する。 ②学習意欲と達成感を高めるため、算数の授業において、習熟度別学習・少人数指導を実践する。	①学校評価「学習指導」の児童・保護者アンケートの肯定的評価を昨年度より向上させる。 ②学校評価「タブレット」の児童・保護者アンケートの肯定的評価を昨年度よりも向上させる。 ①児童アンケート（学びの指標）「主体的・探究的」の項目を昨年度より向上させる。 ②基礎学力調査アンケート「主体性・技能定着」の肯定的評価を昨年度より向上させる。					
2	＜現状＞ ○市学習状況調査（生活に関する調査）では、「学校に行くのは楽しい」「教育相談」の質問に肯定的な回答の割合は、市平均をやや下回った。 ＜課題＞ ○同学年・異学年との友達との交流やよりよい人間関係の構築に課題があるので、人とのコミュニケーションを図る学習や活動を意図的・計画的に実施することに重点を置きたい。 ○毎年増加傾向があり、どの学級にも在籍する特別な配慮を要する児童に対して、組織的な対応が必要である。	・児童の自律と望ましい人間関係の構築に向けた異学年交流、集団活動の充実 ・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実	①異学年交流について、各学年に応じた目標を設定し、各リーダーを中心とした「なかよしタイム（縦割り活動）」を実施する。 ②集団活動について対面での活動とオンラインを併用することで、計画的に児童の自覚と責任感を醸成する。 ①「つながる～む」のソフト・ハード両面を整備し日常的運用を定着させる等、教育相談を充実させる。 ②いじめへの早期発見・早期支援・教育相談研修等を実施し、迅速な組織的な初期対応、児童の気持ちに寄り添った丁寧な対応の徹底を継続する。	①学校評価「思いやり」の児童・保護者アンケートの肯定的評価を昨年より向上させる。 ②異学年交流や集団活動を通して、児童が学年に応じた自覚と責任感をもつ。 ①学校評価「相談」の児童・保護者アンケートの肯定的評価を昨年度より向上させる。 ②学校評価「ルール」の児童・保護者アンケートの肯定的評価を昨年度より向上させる。					
3	＜現状＞ ○地域・保護者の積極的な協力をいただき、本校の目指す児童の姿について共通理解を図り、児童を家庭・地域全体で育てていくことを共有している。 ＜課題＞ ○コミュニティ・スクールのさらなる発展のため、地域・家庭・学校が教育や児童の成長に対する責任を分かち合い、役割分担が図られることで、教職員が児童と向き合う時間の確保につながると考える。	・地域とともにある学校づくりのための取組の充実	①郷土に愛着と誇りを育む教育の推進として5学年社会科の学習に「春野っ子米づくり」を位置付け、持続可能な取組として定着させる。 ②地域・家庭との連携を深めるためPTAや地域行事への職員参加と児童の声を反映した学校運営協議会となるよう協議会への児童参加を企画する。	①地域との関わりに関する児童アンケートの肯定的評価を80％以上にする。 ②教職員が1人年1回以上、PTAや地域の行事に参加する。学校運営協議会に3回児童が参加する。					
4	＜現状＞ ○昨年度、施設設備の不具合が主な原因となる児童のけがや救急搬送を伴う事故はなかった。 ＜課題＞ ○児童の安全に関する取組については、繰り返し実施するとともに、社会の変化に即した新たな課題への対応が必要になる。	・安全な生活の実現に主体的に取り組む児童の育成に向けた教育活動の充実	①地震・火災・竜巻・不審者に係る避難訓練、交通安全・スマホ・インターネット・防犯・非行防止・自転車・薬物乱用防止教室及び職員研修（傷病者発生対応、ASUKAモデル、不審者対応等）を計画的に実施する。 ②安全な学校生活や登下校について児童が主体的に考えられるよう一斉下校、班長・副班長会議や保健委員会の取組を実施する。	①学校評価「環境」の保護者アンケートの肯定的な回答の割合を昨年より向上させる。安全に関する児童アンケートの肯定的評価を80％以上にする。 ②児童委員会とも連携し、児童が主体的に取り組む活動を計画的に実施する。					
5	＜現状＞ ○情報端末をはじめとしたICTの活用方法や学習活動について、研修や研究授業等においても、活用事例を蓄積してきた。 ＜課題＞ ○ICTの活用や学習指導の工夫について、教員間で取組や意識の差が見られる。 ○「子どもの手本となる教職員」を目指し、職員がお互いを尊重する働きやすい職場づくりを全員で常に心掛ける必要がある。	・一人ひとりが持ち味を発揮し、弱点をカバーしあう、誰もが居心地のよい集団の創造	①学校課題研修を通して、教員全体で「個別最適で協働的な学びへの授業改善」についての共通認識を持ち、教職員の主体的な授業改善を行う。 ②教職員の強みを生かした1人1回以上の教職員の主体的な授業公開の実施や自主研修等と通して、常に学び続ける教職員を目指す。	①学校評価「授業」の児童アンケートの肯定的評価を昨年度より向上させる。 ③児童アンケート（学びの指標）「ICT」項目を昨年度より向上させる。教職員アンケート「授業」の肯定的評価を80％以上にする。					